

本校のICT環境と情報教育について

富山県立伏木高等学校 高島 英樹

1. 本校について

本校は県内唯一の国際交流科の単独校です。英語に加え、全員が第二外国語として中国語、韓国語、ロシア語から1言語を選択して学びそれらの国と相互交流を行っています。

2. 本校の設備と機器について

本校のICTに関する設備・機器は、他の高校と大きく違う点はありません。

昨年度、移動式のディスプレイが3台入り、各階に1台割り当てられ、主に地歴・公民科と理科で使われています。従来の掛け図ではやや見にくく、また古いものが多いので使いにくい面がありましたが、ディスプレイとノートパソコンをセットにしているため、最新の図やデータが使えるようになり、学習効果を高められるようになりました。またコンピューター室だけでなく、視聴覚室でもプロジェクターが備え付けられているので、英語科がスカイプを使って外国と接続をし、会話の授業を行うこともあります。

3. 生徒について

本校の生徒に、小学校や中学校でのコンピューター使用状況を質問すると、ワードやエクセル、パワーポイントまでしっかり使ってきた生徒は数えるほどしかいません。また、大半の生徒は、授業はしたけれど、ほとんど覚えておらず使えない状態です。

さらにコンピューターにある程度触ってきた生徒は年々少なくなっており、3年前はクラスに6～7名はいた、コンピューターをある程度使ってきた生徒が今年度はクラスに3～4名になりました。

4. 本校の教育課程と生徒の情報機器活用状況

生徒はほぼ全員、高校入学時にスマートフォンを持っています。120名中、持っていない生徒は1～2名です。また半数は高校入学時にスマートフォンを持つようになっています。

この実態を鑑み、本校では年間計画で、1学期にネットワークに関するモラルやセキュリティを中心に授業を行っています。情報モラル、セキュリティ、著作権、個人情報保護の保護、メディアリテラシーに関する授業を1学期に行い、スマートフォンを使用する上での注意事項や気をつけるべきことを学習しています。

コンピューターを実際に触るのは2学期に入ってからになります。文章の作成や表計算の実習を通し、ある程度これらが使え、慣れることを目的として学習を進めています。

本校では学科の性格上、海外との交流事業が多いため、様々なプレゼン作成のためにコンピューターを使っています。また2年に行われる海外語学研修に関して、事前学習や事後の報告書作成などにコンピューターを活用させ、操作の習得、活用力の向上を図っています。

5. 今後の課題と解決に向けて

本校における情報教育の課題として、セキュリティに関する意識は高いが、モラルや著作権、個人情報の保護についてはまだ意識が低い状態です。ラインを初めとしたSNSの使用に伴うトラブルは、いわゆるネットいじめにも繋がっていくケースもあり、授業以外でも啓蒙を続けて行く必要があります。